PEACH-PIT

ローセンメイデン 4

YJ ヤングジャン YJC

ローセンメイデン 4

PEACH-PIT

集英社

ISBN978-4-08-879029-9

C9979 ¥600E

定価 本体600円＋税

雑誌 44269-29

元の世界に戻る鍵の大時計を動かすには、
翠星石と蒼星石、双子の庭師の力が必要だった。
蒼星石は、奪ったローザミスティカを返すよう、
水銀燈に取引を持ちかけるのだが…。
"まかなかった"ジュンと"まいた"ジュンは
元の世界に戻るため、それぞれ試練に立ち向かう!!

4

YJ ヤングジャン YJC

YJ
ヤングジャンプ
YJC

ローゼンメイデン 4

ISBN978-4-08-879029-9

C9979 ¥600E

定価 本体600円＋税

雑誌 44269-29

元の世界に戻る鍵の大時計を動かすには、
翠星石と蒼星石、双子の庭師の力が必要だった。
蒼星石は、奪ったローザミスティカを返すよう、
水銀燈に取引を持ちかけるのだが…。
"生かなかった"ジュンと"生いた"ジュンは
元の世界に戻るため、それぞれ試練に立ち向かう!!

僕ら姉妹は皆、
不完全な存在だから。

薔薇乙女・第4ドール蒼星石。
彼女がついた"最初で最後の嘘"とは?

絶賛発売中!!
「Rozen Maiden(新装版)」全7巻
画集「Rozen Maiden」

PRESENT 詳しくは帯の裏をご覧ください

蒼星石QUOカードを抽選で100名にプレゼント!

週刊ヤングジャンプにて大人気連載中!!

PEACH-PIT

集英社

蒼星石QUOカードプレゼント!!

カバーの蒼星石をQUOカード(500円分)にして、
抽選で100名様に!

★締切:2010年10月8日(金)当日消印有効

※デザインは変更になる場合があります。

応募のきまりは帯の袖をご覧ください▶▶▶

★ 独 創 の さ ま り ★

応募者全員様(ハガキに当りはずれ一切なし)、あなたの住所・氏名・年齢・住所・職業(学生)・電話番号を明記して、下記の宛先までご応募ください。

★宛先:〒101-8052 神田郵便局 郵便局箱第86号
集英社「週刊ヤングジャンプ」編集部 「ローゼンメイデン 蒼星石QUOカード」係
★締切:2010年10月8日(金)当日消印有効
★発表:賞品の発送をもって代えさせていただきます。

・応募者多数の場合は抽選による抽選にて当選者を決定します。
・こちらに書いてあること以外に個人情報および選択以外の用途に利用することはありません。
・応募券はがきでないようにしっかりと貼り付けてください。
・応募の際のFAXやEメールでは一切は、賞品の発送ができない場合があります。
・当選発表に関する問い合わせには一切応じません。ご了承ください。

ローゼンメイデン④ ISBN978-4-08-879029-9

YJC

ローゼンメイデン

4

PEACH-PIT

集英社

絶賛発売中!!

「Rozen Maiden(新装版)」全7巻

画集「Rozen Maiden」

僕ら姉妹は皆、

不完全な存在だから。

薔薇乙女・第4ドール蒼星石。

彼女がついた“最初で最後の嘘”とは?

PRESENT 詳しくは帯の裏をご覧ください!

蒼星石QUOカードを抽選で100名にプレゼント!

週刊ヤングジャンプにて大人気連載中!!

PEACH-PIT

集英社

蒼星石QUOカードプレゼント!!

カバーの蒼星石をQUOカード(500円分)にして、抽選で100名様に!

★締切:2010年10月8日(金)当日消印有効

※デザインは変更になる場合があります。

応募のきまりは帯の袖をご覧ください▶▶▶

★ 応 募 の き ま り ★

応募者を郵便ハガキに限り1口(2セット不可)、あなたの住所・氏名・年齢・性別・職業(学年)・電話番号を明記して、下記の宛先までご応募ください。

★宛先:〒101-8052 神田支店 郵便私書箱第66号
薔薇乙女「蒼星石QUOカード」係

★締切:2010年10月8日(金)当日消印有効

★発表・賞品の発送をもって代えさせていただきます。

＊応募者多数の場合は厳正な抽選にて当選者を決定します。
＊ここに応募していただいた個人情報はまったく薔薇乙女以外の目的に利用することはありません。
＊応募者はがきが汚れないようにしっかりと切り付けてください。
＊応募のきまりが守られていない場合、賞品の発送ができない場合があります。
＊当選の権利は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。ご了承ください。

ローゼンメイデン5 ISBN978-4-08-879029-9

ローゼンメイデン
4

ローゼンメイデン 4

contents

TALE 20
眠り姫と王子様
3

TALE 21
双子の庭師
29

TALE 22
ひとつだけ
57

TALE 23
タイムリミット
81

TALE 24
二人のジュン
106

TALE 25
まきますか　まきませんか
133

TALE 20

時計が…？
鳴らない筈の時計が
鳴り響いたあの時
瞬間は世界から
切り取られ
別々の時を刻み出す
私は あれを
待っていた――
二つの瞬間が
重なりあう
そのたまゆら
そうね
計算違いも
あったようだけれど
……
なるほど…
二つの世界の重なり合いは
nのフィールドへの扉を開く
けれど雪華綺晶もまた
その瞬間を狙っていた
わけだね
まいた世界と
まかなかった世界…
存在し得ない薔薇乙女
幾つもの歪みは積み重なって
臨界点を超える
それが あの
大時計に
集約された

あんな時計
ただの大道具(トプリカ)
だったのに…
…でも
そうか
あの時計をまた
動かす事が
できたら…
そう
重なり合っていた
瞬間は再び
動き出し
元の世界に
戻れる筈だわ…！

よし！それじゃあみんな…
おおっ！かしら先生がまた
あとは任せたかしらーーッ!!
ピューー
先生ェーー!?

ちょっ どっどこ行…
そうと決まったらカナはこの事をジュンに知らせなきゃ
僕に？
違うわえーーっとスモールジュンの方かしら
まいた僕…！
これまで思うように動けずにいた"まいたジュン"にとっても雪華綺晶が弱ってる今はチャンスなの
きっと今ごろこの近くまで来ているハズ…

――よし

……
ジュンが…

こっちは任せろ！
まいた僕をしっかり
つれてこいよー！
ラジャーかしら！
水銀燈もしっかりやるのよー
じゃなきゃ二個目の
秘密をバラすかしらー
早く
行きなさいよ…
まいた
僕…

こんな所が
第42951世界…
雪華綺晶のアジトか
雛苺の世界とは
全然違うんだな…

nのフィールドに来てまで
ヒキコモリしてたってのに
やっと外に出られたら
樹海って…コレ…
なんか
違う意味で
滅入るっつーか…
っ痛！
なんだコレ
トゲ？
もー靴はいて
ないのに…
おい金糸雀
気をつけ…
…と…そうか
いないんだっけ…
アイツ
うるさかったけど
いなきゃそれは
それで…
……こっち来てから
唯一の話し相手
だったしなぁー
…はぁ…
どうも
独り言が多いや…
おや
坊ちゃん
お喋りの相手を
お求めですか？

ラプラスの魔…！
クックッ
如何にも
左様にも

おや
断る

この兎めなど
如何です
退屈しのぎに
おとぎ話でも
お聞かせ致しますよ

おやおやおや？
ぜんたい
どうして
つれない事で
お待ち下さいよ
坊ちゃん

お前なんか
誰の味方か
わかりゃしない
じゃないか
たまに助けてくれたと
思えば 必要な時は
傍観してばっかり

ついてくんな
あれあれ
このタイミングは
何かあやしい

おや これは
手ひどい…
ゲームとは
審判者がつきもので
その勝敗に口出しは
できません
とにかく今は
お前と遊んでる
ヒマはないの
雪華綺晶の
目が逸れているうちに
探さないと…

この私めも
そんな類の者
なのですよ?

きっと
よほど大切なものを
お探しに違いない
ククッ

ほう
何か
失せ物を?
まぁね
それはそれは
確かにお忙しい
忙しい忙しいとは
兎の台詞でしょうに

……

ってゆーか

いつまで
ついてくるん
だよ!!
そろそろ
退屈になられる
頃かと
しかし…

困りましたねぇ
そも おとぎ話では
追いかけられる方ですのに
これでは
まるで
あべこべに…
だから
もういいよ
おとぎ話は…

話し相手は
ほしくても
話の通じない相手じゃ
意味が…
…っと

え…!?

こ…
これ……
完全
行きどまり…
なんだ？
底の方に何か
光って見える……
深すぎて
見えないや
ほうほう

わっ
では こちらを 覗かれてみては？
……
あれは……

見つけた……

本物の真紅のボディだ…！

おや
お探し物とは
アレですか

どうしよう
どうしたら取れる？

眠り姫を助けに来た
王子さまか…いえ
これもあべこべ

おとぎ話のお姫さまは
坊ちゃんの方かも
知れません

彼女らは実に
何かを得ることに
長けている

ねえ坊ちゃん
ご存じで？

いら草で
服を編んだり
長い三つ編みを
垂らしたり…

何かを得るには
犠牲も付き物
というお話

…いら草…
……
このトゲだらけのが……いら草？
いてっ
三つ編み…編む…編むか
これだけあれば下に降りる縄みたいなものが作れるかも……

編み棒も何もない…
けどトゲだらけだぞ…
どうしました坊ちゃん
シャッポを脱ぎますか

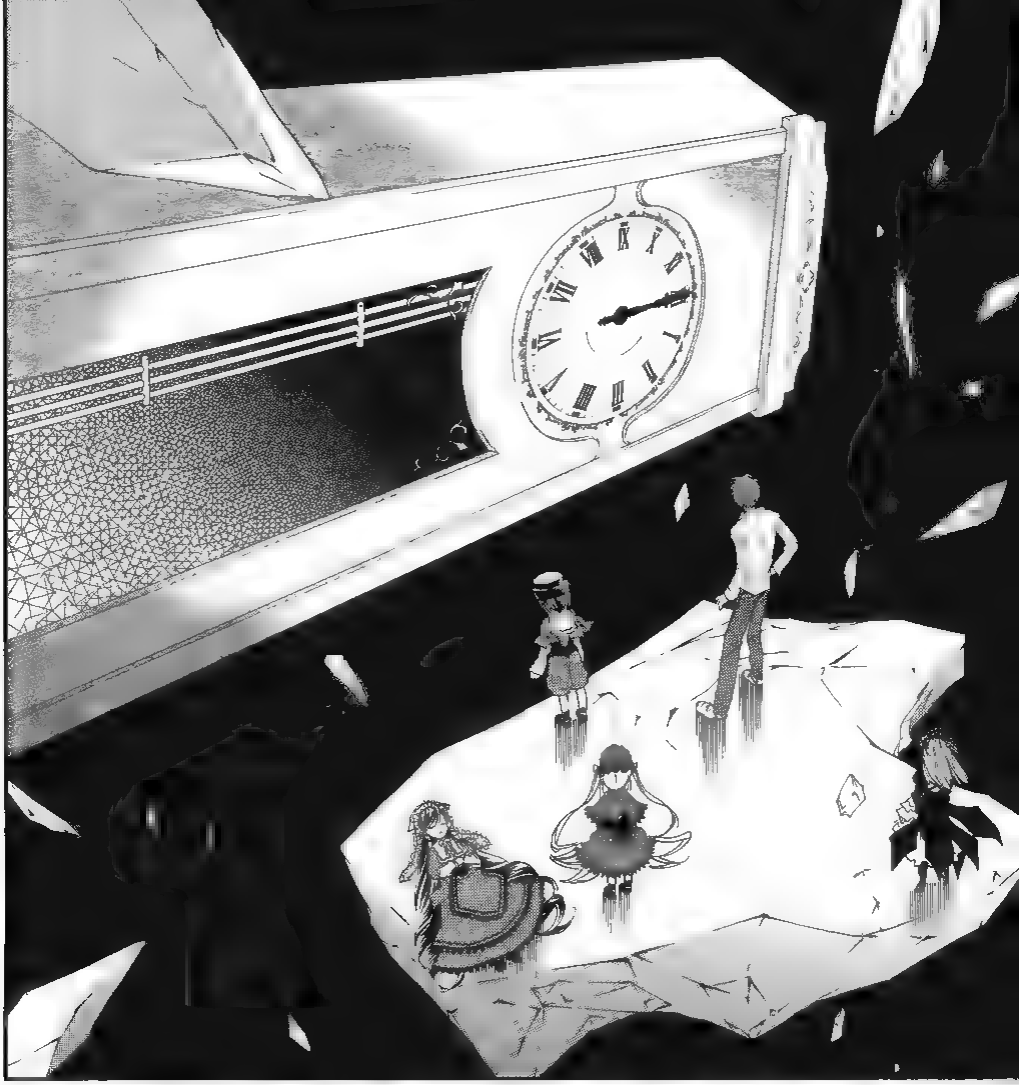
できる

やってやる

どんっ

僕なら
できる！

あいつに
笑われたく
ないから——



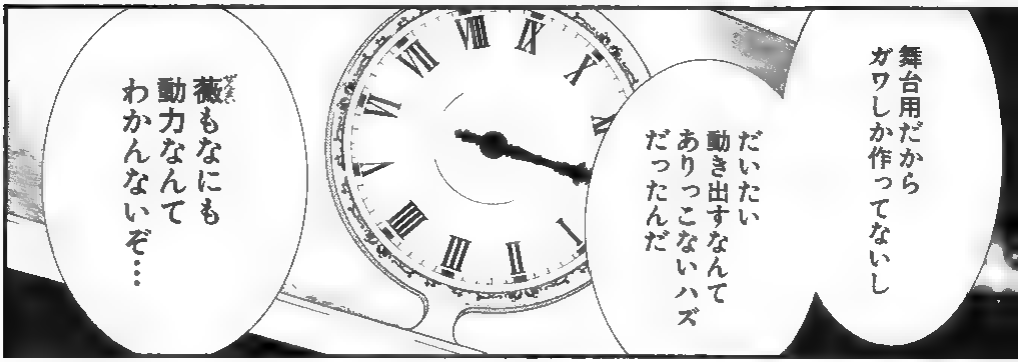
さて…
ここからが
最後の大仕事ね
この大時計を
動かすには
どうすれば
いいのかしら
……
なぁ
真紅
何
いや…
あのさ…
よかったのか？
金糸雀と
一緒に行かなくて…

その方がまいた僕と会えたんじゃ…
いて
ピョンッ
この真紅なしでなんとかできるとお思い？自惚れ屋さんね
今私が一番に考えなくてはならないのは貴方だわ

まずは貴方を元の世界に必ず帰すわ
よくって？仮下僕
…そっか
ありがとな
うん

まったく…一体どうしろと言うのよ時計を動かすなんて…
薇でも探してみる？蒼薇乙女の起動みたいに…
はン…あんなに大きな？くだらなぁい…
そうだね
……

ぺた
木で
出来ている…
そうだよ…元々は
僕が作ったんだ
トンカンやってさ
ってもあんな巨大じゃなかったけど…

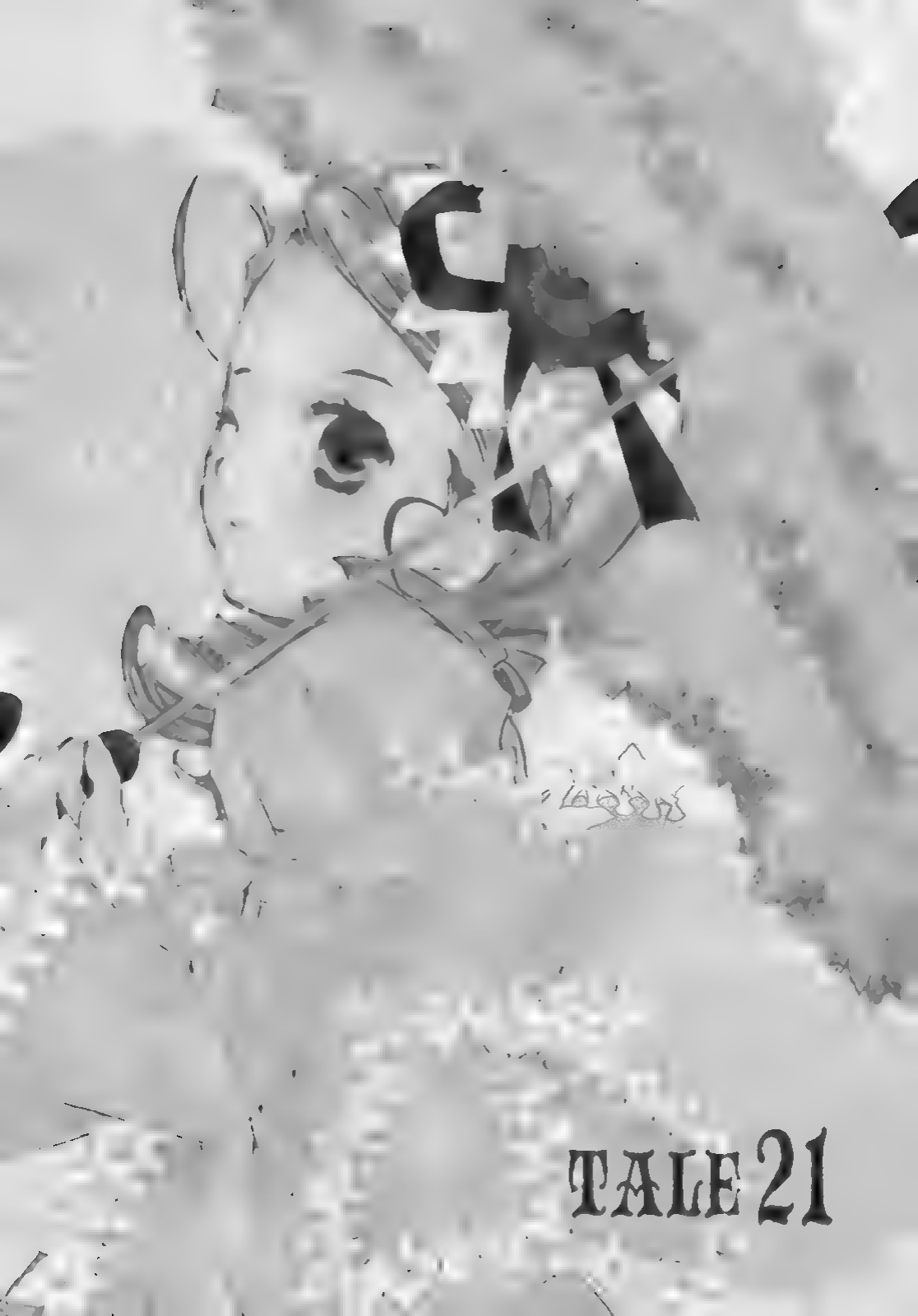

舞台用だから
ガワしか作ってないし
だいたい
動き出すなんて
ありっこないハズ
だったんだ
薇もなにも
動力なんて
わかんないぞ…

マスター

僕…
できるよ
あの時計を
動かせる
えっ…
蒼星石(そうせいせき)!?
それがマスターの
望みなら…
命令して
くれれば
僕は…

僕はなんだって…
翠星石の!?
ごめんよ
僕一人の力では
足りないんだ
翠星石の
如雨露が
なければ…
え…と…
…けど

庭師の双子
二人の力が
揃わなければ…



TALE 21

翠星石の…？
そう
あの大時計を
動かすには僕と彼女の
力がいるんだ
くっ……
だらなぁい！
まぁた双子の
ベッタリってわけ
お互いがいなきゃ
何もできないなんて
ハンパでミジメも
いいところだわ

……ふ
何よ
いや
少し前にも
君とは こんな話を
した気がする
そうだね
僕ら姉妹は皆
不完全な存在だから

中でも対なる
乙女(ペア)である僕達は
二人が揃って
初めて本当の
意味を持つ
心の樹を司(つかさど)る
「夢の庭師」として――
庭師
…？
……

蒼星石の
前のマスターには
使いこなせなかった力…

止まった刻を
動かすには
その力が今
必要ということ…！

けれど待って
そのためには
貴女たちそれぞれの
ローザミスティカを…

…そうだね

あるべき形に戻す
必要がある

ちょっ…
ちょっと待て

ローザミスティカを
あるべき形に？

話がこみ入って
きてよく…

そうね

いいわ
整理しましょう

ローザミスティカは
私達薔薇乙女の
生命の中枢…

薇
契約
そして
ローザミスティカ
蒼薇乙女を動かすには
この3つの要素が
不可欠よ
だからこそ
この三つは
惹き合う…
さっき物質世界である
「まかなかった世界」で
雪華綺晶が蒼星石のボディを
乗っ取ろうとした時は
器への移行が
不完全な状態で
強引に蒼星石の指輪と
契約してしまった
しかも…翠星石が
自ら差し出すという形で
ローザミスティカまで揃った
蒼星石の復活は
これだけの要素が揃って
辛うじて成立したのよ
結果として
私達蒼薇乙女は
最初は七人…
二人が消えて
今は五人
ローザミスティカは
全部で七つ…

ALICE GAME
水銀燈の持つ
ローザミスティカは
自分と蒼星石の
ものの二つ
そして蒼星石は
今は翠星石のものが
一つだけ
金糸雀と
雪華綺晶が
それぞれのものを
一つずつ
そしてこの真紅は…
自分のものと
雛苺のものを
二つ持っている

そう…でも今は
翠星石と僕の
二人が揃わなきゃ
ならない

そして僕ら二人の
ローザミスティカは
どちらもあるんだ
今この場にね

この意味が
わかるかい？

……

ええ
おばかさん

私の持ってる
ローザミスティカを
貴女に返せって
屑みたいな理屈でしょ
おばかさん

水銀燈！

ちょっ
ちょっと待て

わかったっ
わかったけど

なんでこんなに
こんがらがって
るんだ!?

どぉ
お！
一人一個！
自分のものは
自分が持つ！
意味のない
姉妹ゲンカは
やめるんだ！

お…
アレ？
僕いま
意外にいいこと
言った…？
確かに…

人間が死ぬために生まれてくるようにね
アリスゲームは私達の宿命よ意味なんて無くて当然だわ
え
くだらない…
マスター貴方の言葉はたしかに正しい…けれど

えっ
えっ
えっ
まあ基本的と言うよりも本末転倒な意見だわね

そのアリスゲームで蒼星石貴女は負けたの
勝者は私…！
今こうして話をしていること自体ありえない話だわ
それも双子の姉のお情けにすがったね

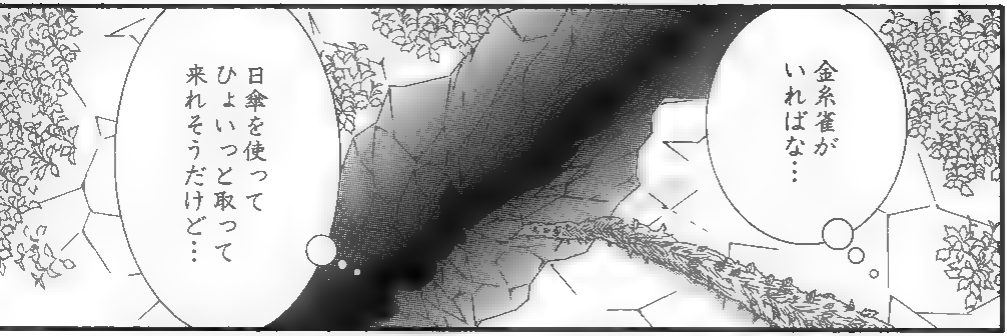
いいえ それは
違うわ！
蒼星石の
ローザミスティカは本来
翠星石に差し出されたもの
それを貴女が
卑劣にも横から
攫ったのだわ！
あら
気にさわって？
…なんですって？
お姉さま
あ――
待て待てっ
言った
そばからっ

真紅…君は
相変わらず強堅で
慈しみ深い
蒼星石？
水銀燈
君も狡猾で
不遜のままだ
僕に君達のような
強さがなく
敗れたのは事実だ
はぁ？
本意じゃないにせよ
返してほしいとは
思わない…
けれど
あんな風に奪った
ローザミスティカだ
傷むだろう…？
ここが

僕のローザミスティカは
強情だったろう？
そう簡単に
君の身体には
なじまなかったんじゃあ
ないかい？
う…
これは
取引きだよ
君のその
傷みを失くして
あげよう
そういえば…
ほんの一瞬…
時計を動かし終わったら
僕のローザミスティカは
すぐに君に戻そう
そしてその時は
僕が僕の意志で
君を勝者と
認めて託すんだ
どう？
悪い話じゃ
ないだろ？

さあ…どうする？
いてっ…
くー…
おやおや
これはまた…
神技級の職人の指が
台無しですな
そう思うなら
お前の手袋でも
貸せよ！

底までは
まだまだ長さが
足りないぞ
あとどれくらい
かかるんだか
おやおや
この間にも長針は
時を刻み…ほら
じきに短針も
無視無視


金糸雀が
いればな…
日傘を使って
ひょいっと取って
来れそうだけど…

スモール
ジュ――ン!!
のところに着く前に
完全に
迷ったかしら――!
ここは一体
どこなの
かしらぁ――!?

いつぞやも
そうして指を傷めて
おいでしたな
坊ちゃん
あの時は乙女(ドール)の
右腕だけでしたが
今度は全身
…ともなれば
伴う痛みも
更なるものでしょう
さて どこまで
耐えられますやら
おや…

待ってろ
真紅…

取引き…ね
ふん…それで〝あるべき形に〟ってわけ…
かと言って裏切らないって保証は？
僕は嘘が好きじゃない
……

約束するよ
水銀燈には嘘は
つかないって
――だけど
これから僕は
一つだけ嘘をつく…――

翠星石
気がついたかい
え…？
ここは…
…そ…

蒼星石…!!

蒼星石…
蒼星石…!
良かった…!
元に戻ったですね…
でもどうしてです
貴女のローザミスティカは…?
それに翠星石のローザミスティカもなくしたはずでしたのに…

水銀燈!!
水銀燈が
返してくれたんだよ
そして僕は君の
ローザミスティカを
君に戻した…

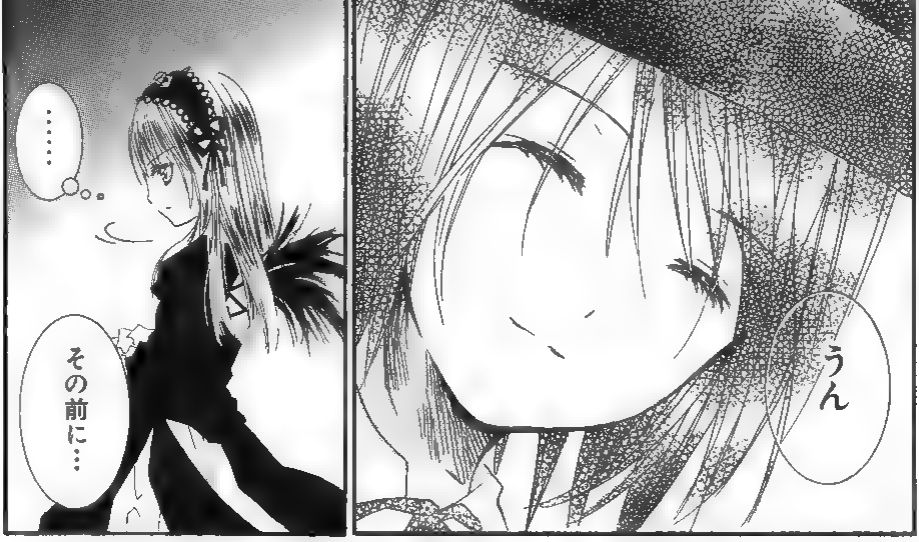
本当に…?
……

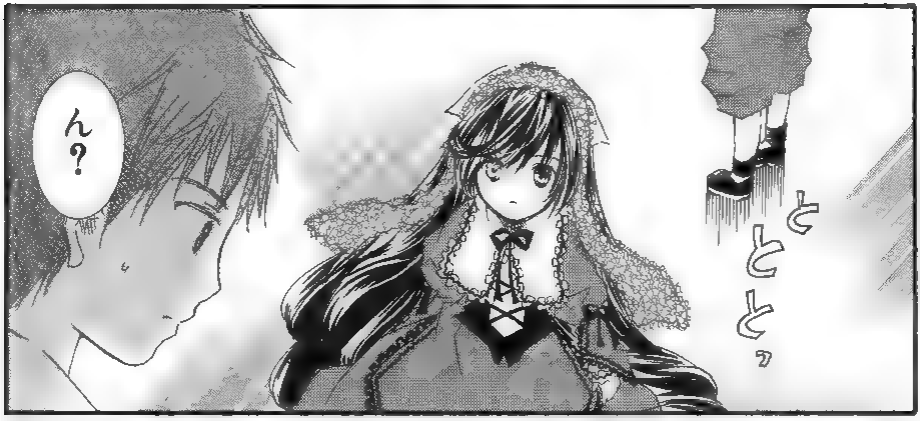
水銀燈!
極悪ひねくれ人形
だとばかり
思っていましたのに…!
殺すわよ
見直して
やるです!
でも
ふぇ

君は
自分が何をしたか
わかってるかい
翠星石
はひわ……
れも…(でも)
あんな無茶は
姉妹同士でも
許されない
二度としないと
お父様に誓って
ちっちかふ
れふ――
意外な一面…
どっちが姉?

さあ…
ひと仕事だよ
翠星石
え?
あの時計を
動かさなきゃ
ならない

時計…?
そう…
重なりあった
二つの世界の流れを
元に戻すために
僕ら二人の
庭師の力が
必要なんだ
じゃあ…元の
まいた世界に…?
そうしたら
ずっと一緒に
いられるですね?


うん
……
その前に…


ととと
ん？

…その…さっきは
だまして悪かった…
…と思わなくもない
ですぅ
でも あの指輪が
翠星石のものとでも
一瞬でも思ったのなら
とんだバカ野郎ですぅ
翠星石の
マスターは
チビジュンだけですから
おあいにく様っ
それだけですっ
はあ!?

翠星石…
君に

最初で最後の
嘘を――

命令を

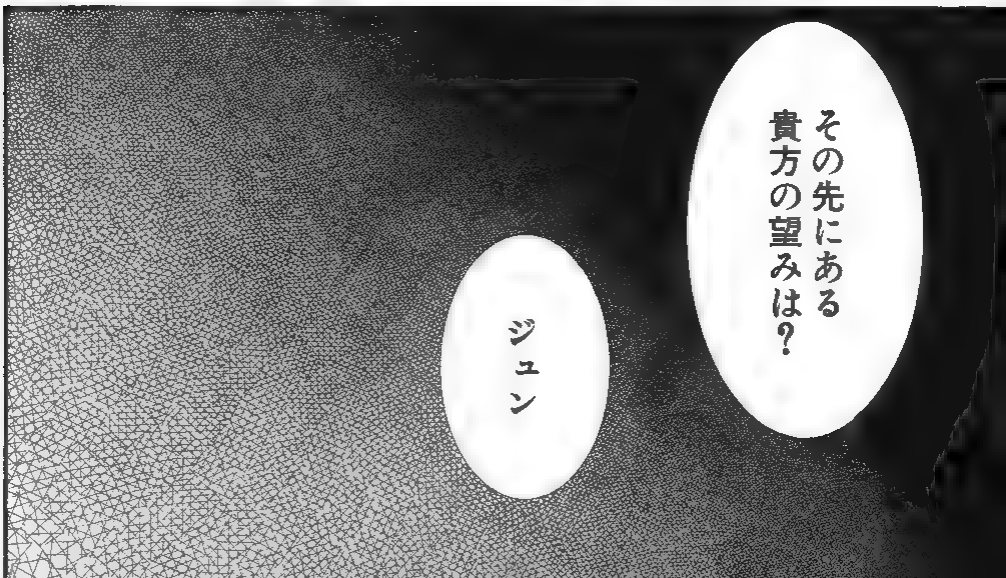
いいえ…
いいえ
私のマスター…
貴方は私のマスターよ…
口惜しい…
口惜しい…
終わらせませんわ――

TALE 22

僕らは契約者なしに
真の力は使えない
僕のマスターである
貴方を仮媒介とする
事で初めて鍵と
如雨露を
揃えられるんだ
本当ならお前を
マスターになんぞ
認めないんですが……
今回ばかりは
仕方ないです
さあ マスター
命令を――

め…
命令って…

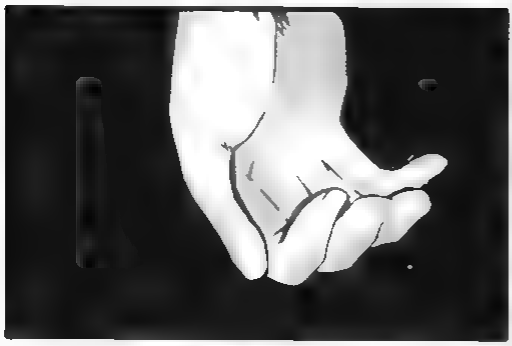
そんな大げさな…
だいたいもう
あの大時計を動かすって
話は決まって…
なぁ真紅…？
その先よ


その先にある
貴方の望みは？
ジュン

人形は
貴方のもの
貴方は主人
何がしたいのか
何が欲しいのか
貴方の望む方向が
彼女達の
力の向きを決める
貴方の心のままを
一つだけ
口にすればいい
心のまま
僕の望み…
考えて
答えを
導いて——

僕が本当に心から
叶えたいと
願うものは――
もう 戦わなくて良いの
苦しまなくて良いのよ
過去を変えて
"今"を正しい
ハァ…

しっかりしろ
よく考えろ
いま
何が一番
重要なのか…



ばしっ

舞台だ
舞台を元通りにしたい
僕達の作った舞台をちゃんと元あった形に戻して
役者も揃って…お客さんに最後まで上演したい
それが一番でそれが唯一だ
…元ある形にそれが
マスターの願い…

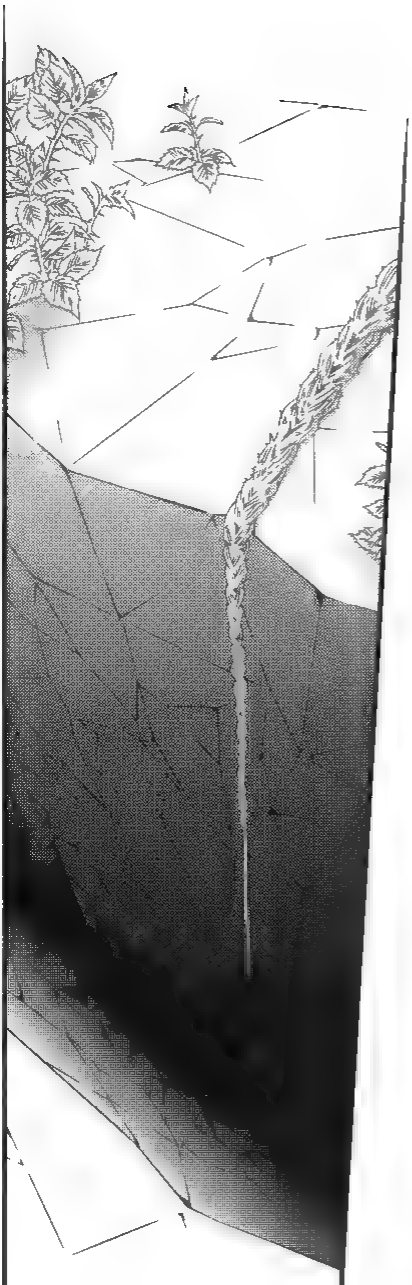
いくよ
翠星石
はいです
鋏に如雨露…

健やかに
伸びやかに……
芽を吹かせ
若葉を萌やし
緑の梢を
茂らせて…
光の示す
方向へ――！

双子人形の力――
これが

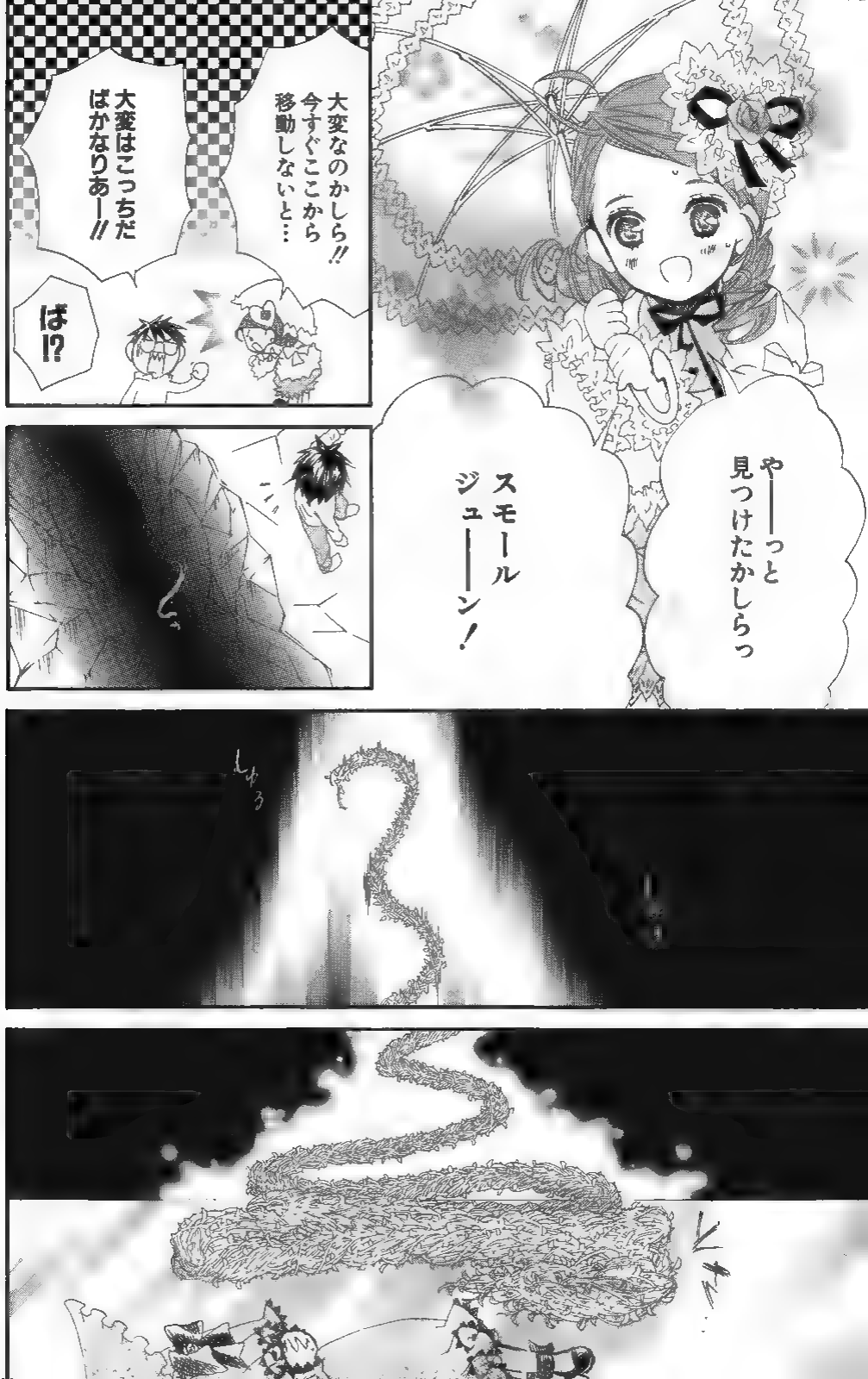
…すげー…
大時計に
生命の息吹が
宿った…
仕上げは
頼んだですよ！
蒼星石
うん
お見事
あとは振り子さんが
動き出してくれれば
…ですね
大丈夫…

ポォ
動いたッ!!
やったぞ!!



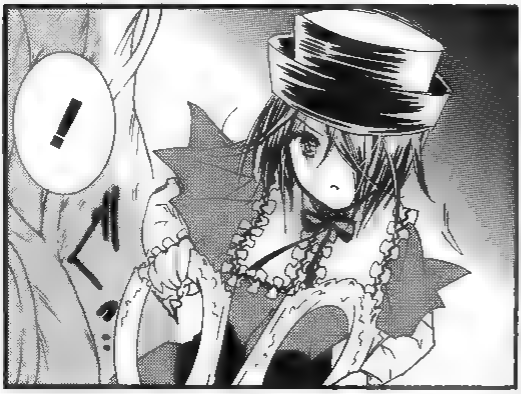
マス…タ…
マスター……

はぁ…
……
あとちょっと
…なのか？
坊ちゃん ちょっと
宜しいですかな
坊ちゃん
……
はてお耳を
畳んでおいでか
坊ちゃん
アイツ
これが終わったら
丸焼きに
してやる
ジュ――ン!!
わっ
ぽろっ
わ――っ
わ――っ!!
どうかお手元に
気をつけて…と
嘘だろおおお


や――っと
見つけたかしらっ
スモール
ジュ――ン！
大変なのかしら!!
今すぐここから
移動しないと…
大変はこっちだ
ばかなりあー!!
ば!?

ヒュオオオオ
い…いくら
フライング乙女の
金糸雀でも ここに
ダイブするのは
ガクブルかしら
どーすんだ！
僕の苦労が…
あら
谷底で何か
光ってるわ
キカッ
あれは…
人工精霊？
あの飛び方…
ヨロ
ヨロ

時計の針は…
動き出したけれど…
振り子がなんか
ぎこちないな…


！

…の…

マスター…
私のマスター…
もう一度
カラダを…

!?
あれは雪華綺(きらき)…
蒼星石！
手間をかけさせるんじゃないわ
水銀燈

貴女たちがしっかり
仕事を終えてくれなきゃ
約束が
果たされないじゃない
約…束？
いいから
そこを
どきなさい

みじめなものね
まだ蒼星石のボディに
未練があるなんて
蒼星石はもう
この水銀燈の
ものよ
ど…
どういう事…
違う！

マスター…
僕の
人形だ

大丈夫か
蒼星石！
マスター…
そうだ
今のところはまだ
僕がマスター
だろ？
……
…はい…
雪華綺晶！
そこにいるな？
よく聞け
僕はお前の
マスターじゃない
…！

マスター…
なぜ…？
マスター…
私は…貴方
貴方の望むままに
世界を作り変えて
さしあげたいのに…
いらない
もう そんなもの
欲しくない
確かに僕だけの
人形が欲しかった…
でも
人形を作り上げるのは
僕自身の手だけだ
他の誰でもないんだ
未来へ続く
無限の選択肢
選び取るんだ
誰かに与えられるんじゃ
意味がない

世界を――
僕が僕の意志で
僕の力で
変えてやるんだ
お前は
いらない…！

TALE 23

ア…あ…
あ
!!
あぁぁぁあ
あ
いけない…！
まだ枝は完全に
伸び切っていない…
あと少し…
持ちこたえ
なくては…！

真紅！
不本意だけど
また共闘のようね
ええ
これが最後の
馴れ合いよ
貴女は翠星石の
フォローに！
私は蒼星石を！

双子のガーデニングを
完遂させるのだわ！
蒼星石…
ジュン！
…あ…
…あ…
…ア…

ぽと…
……
どうやら
行ったようね
ふん…手負いの上に
4体のドール
相手ではね
あれが…
…見つけた
正しい
二枝…！
まいた世界と
まかなかった世界へ
繋がる たった二本の
道しるべ…
二本の枝…
僕が選び取った
そう
他の枝はすべて
刈りとって…

僕が
選び取った世界
カチッ
おっと…
時計が…
やったな
真紅！
……
カタ…
真紅…？

あれは…
人工精霊…？
谷底にあった
真紅の
ボディを…
あ…
あの飛び方…
ベリーベル…？…
雛苺の
人工精霊…

そうか

そう
だったのか

今度は
真紅を
起こしにきて
くれたんだな…
雛苺

ブラボォ…
実に美しい
演目でした
けれど…
おや？
悲しいかな
そろそろ
時間切れの
ようですよ
……？
真紅？
どうした？
…ようやく
…ね…
しん…

!?
ぼふっ

真紅…!!
…し

…え…？
なん…
なんで…
タイムリミット
コト

言ってあったはずよ
レプリカのボディは
時が来れば
千々に砕けるって
時計が進めば
止まっていた たまゆらは
再び動き出す…
必然だわね
それが貴方の
選び取った世界の
答えよ
そん…
ぐらっ

真…紅
…マスター…
こんな…
こんなことって…
折角(せっかく)みんなで
帰れると…
あっハ！
みんなでですって？
あっははは
おっかしい！
貴女にとって
お涙頂戴(ちょうだい)の本番は
これからよ翠星石
さあ
蒼星石
約束よ

さっきから
約束約束って
なんの事です!?
決まってるわ
蒼星石に貸してある
私のローザミスティカを
渡してもらうのよ
私の…?
この期に及んで
何を…
翠星石
いや…
契約なんだ
君とあの時計を
動かし終えたら
僕は負けを
認めて水銀燈に
ローザミスティカを
渡すと…
これは僕と
水銀燈との約束…
いいんだ

そういう事よ
邪魔は許さない
そんなの…
ありえん話です
おかしいですよ！
だって蒼星石は
翠星石と…
きゃっ
動けな…待って！
この羽を斬るです
蒼星石!!
や…約束
したですよ…も…
元の世界に…
ずっと…ずっと
一緒にいるって…

ごめんよ…

いや
いやです！
蒼星石!!
だめです
蒼星石！
想像はしていたけど
外野が
うるさいこと…
さっさと
はじめて頂戴
いやぁッ…

真紅…
真紅…
大丈夫…
まだ
大丈夫だ…
パーツは全部
あるじゃないか
約束したんだ
…僕が
何度でも
作り直すって…
僕ならできる
僕なら…
あ…
ぼろ

覚えていて
ジュン

もし私が消えて
無くなったと
しても

貴乃が作った
お人形のことを

この真紅が
貴乃と共に
過ごした時間を

真紅……

過去は
変えられない

変えたいと
願うのが間違いだ

過去の積み重ね
見えない選択肢を選んで
今があるんだから

それは
これからも

君がそれを
教えてくれたんだ
…でも今は

今だけは…

あの時
まいていれば

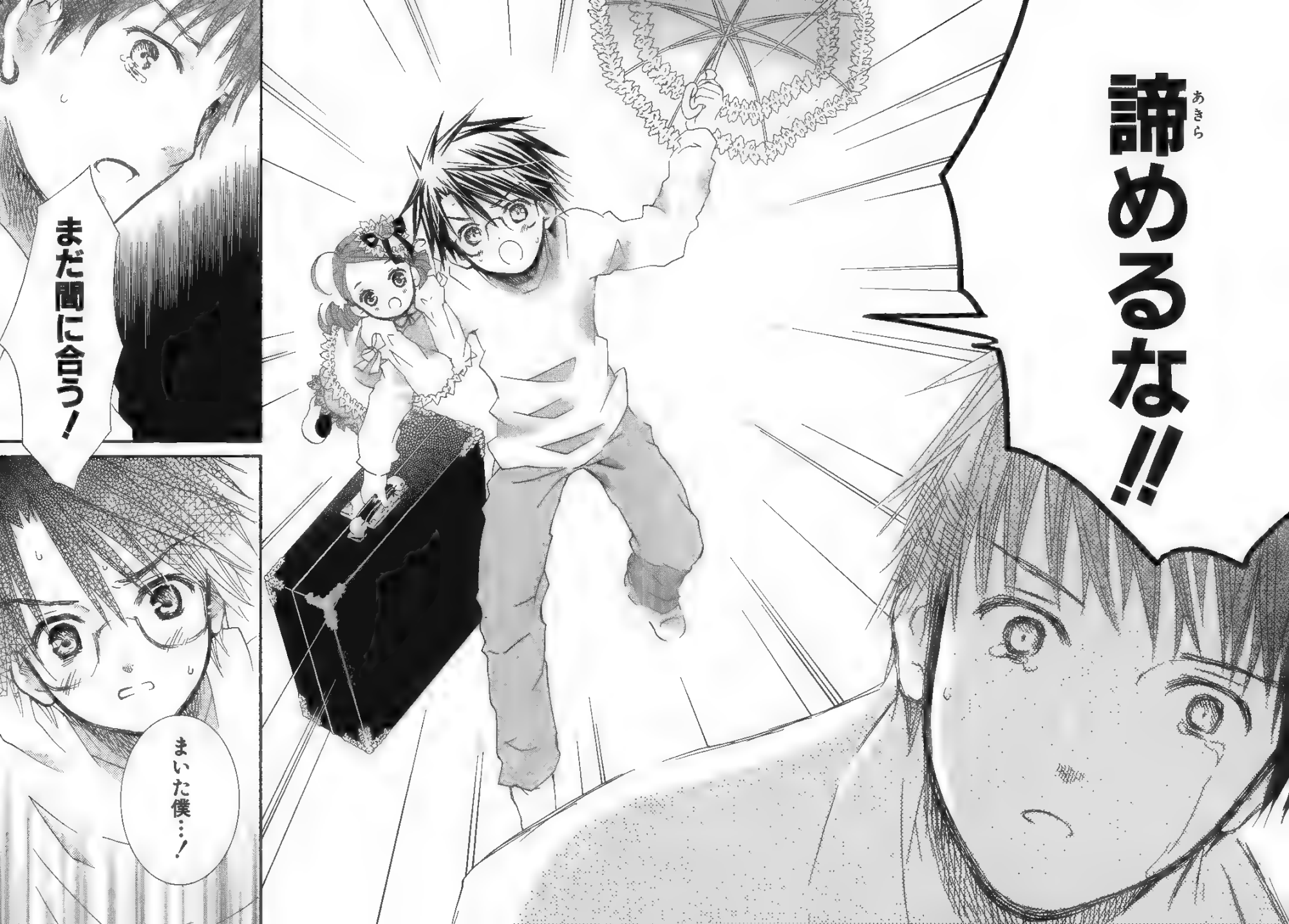
まきますか
まきませんか

今の僕が
まいた僕
だったらって

こうして
ローザミスティカが
残っているのに…

もう僕には
何もできないのか

さっき僕が選び取った
世界は…
間違っていた…？


諦めるな!!
あきら
まだ間に合う!
まいた僕…!

何っ…
ベリーベル…？
なぜ ここに
雛苺の
人工精霊が…
あの鞄の中身…
まさか…
ジュン…！

お願い
蒼星石を
蒼星石を
助けて…！

待ってろ…！
今行く
受け取れ
まかなかった僕
真紅を救え!!

TALE 24

これは…
真紅のボディだ！
雪華綺晶に捕われてた本物の…！

受け取れ！
まかなかった
僕！
ローザ
ミスティカ…
それに
ベリーベル!!
ベリーベル…
あの子の人工精霊…
第六ドール
僕達の
妹…

雪華綺晶に
食べられてしまった子

雛苺

その通り
かしら――っ

わぷ

べちっ

あれは雛苺の
ローザミスティカよ

自ら真紅に
差し出し…そして
これまで真紅のボディを
守ってきたのかしら

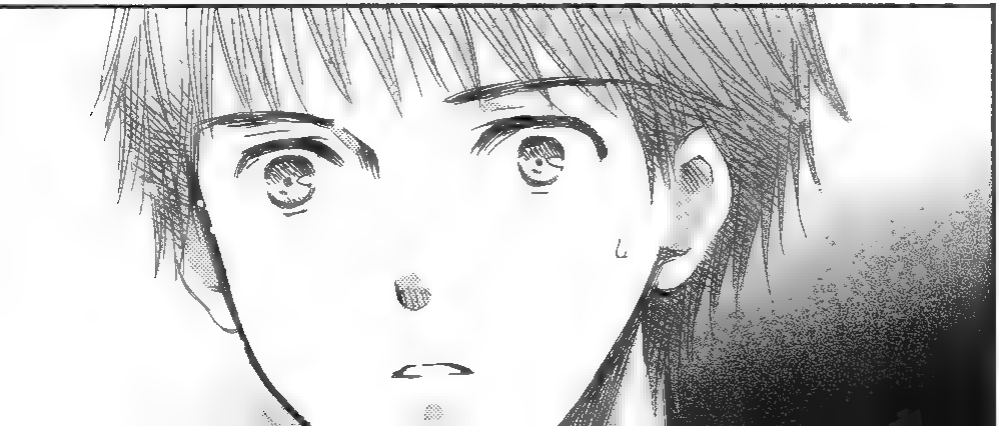
差し出した…？

守っていた
ですって？

嘘でしょ？ 金糸雀
奪われたのではなく
自ら差し出した…？
そうよ！ カナは
雛苺の記憶に触れて
この目で見たのだから
……
…そんな…
横合いから奪った
蒼星石のローザミスティカは
私の身体を拒み弾んだ
なのに
拒むどころか
守ったですって？
この違いは何？
自らの意志で
差し出したと
いうだけで…？
これが
アリスゲーム…？
わっ…
と
どさっ

すぐにローザミスティカを
入れれば きっと
息を吹き返す
急いでくれ
すと
ぼっ…僕が
やるのか？
うん
けど今さっき僕が
組み立てた真紅が
壊れたのに…

できるよ
だろ？



――よし…
カチャ…

ジュン…
真紅…
し…
マスターの手元が
狂っちゃいけない
少し行方を
見守ろう…
……

カチャ…

あとは このローザミスティカを埋めこんで…

ぞく…

いや落ち着け 大丈夫だ

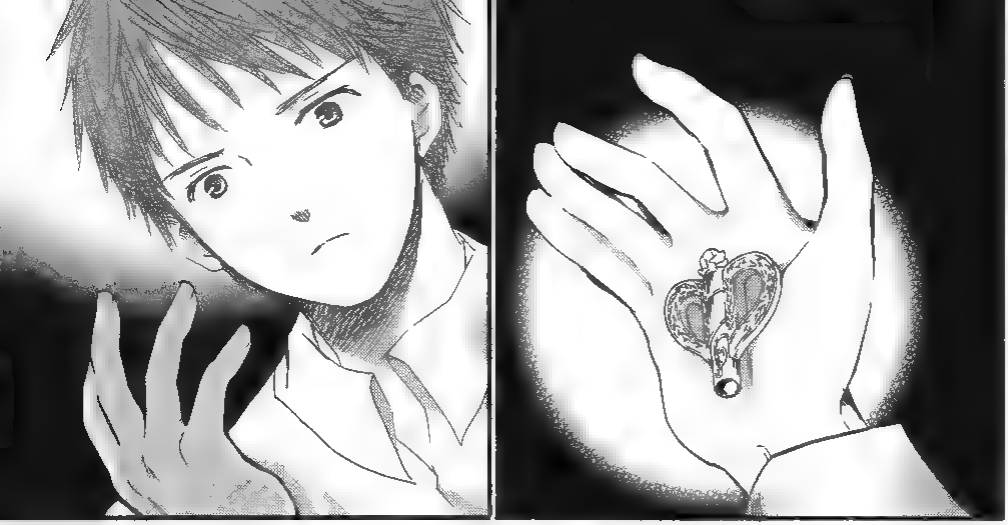
きっとできる …大丈夫

ありがとう

まいた僕

まかない事を選んだ
僕は もう
お前の道には戻れない
でも…
それでも
無限に
世界は選び取れる
のだわ

ありがとう
真紅…



僕
まいた

最後に
これを巻くのは
やっぱり
お前の
役目だ

真紅達を頼んだぞ
わかった
これが

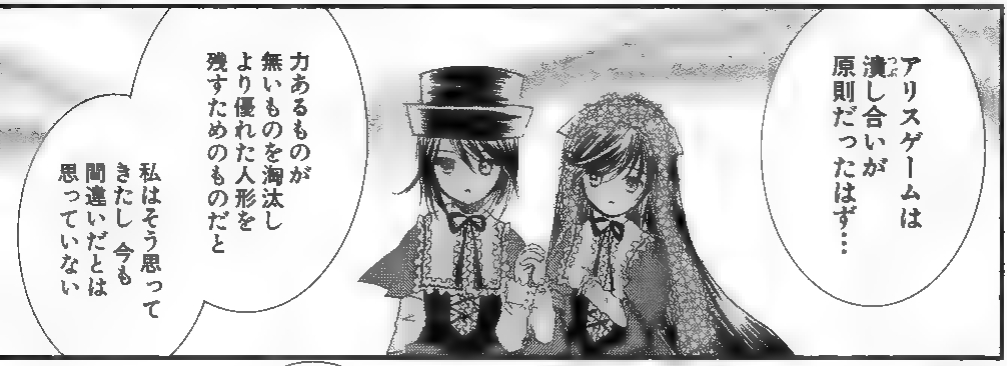
僕の選択――……
あ…
キリ
キリ

真紅……
やったあ！
やったかしら ビッグ&スモール ジュン！
真紅…
ジュン…

ぶっ
へぶ
二人とも起こすのがおそい！
やっぱり
やっぱり…
読めてはいた

あきれた…なんて悪運の強い子なのよ
それが真紅さ
さあ…こちらも話を戻そう

約束通り僕のローザミスティカを
水銀燈君に…
蒼星石…
…え？



私達は
絶望するために
生まれてきた

——そのはずよ
けれど

このゲーム
正攻法だけでは
勝てないのかも
しれない…
そうでしょう？
真紅
綺麗な
いい子ちゃん顔の
真紅
——蒼星石
いい事？
貴女は私のもの
そのローザミスティカ
ほんの少し預けて
おいてあげるってだけ
私の探し物が終わったら
必ず返してもらうわ

行っちゃった
…かしら…
水銀燈…
…やれやれ
僕も相当
往生際が悪いな

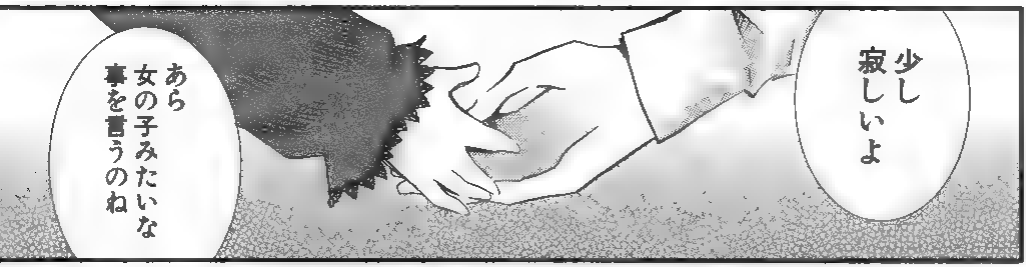
蒼星石…！
よっ
よかったですぅっ！

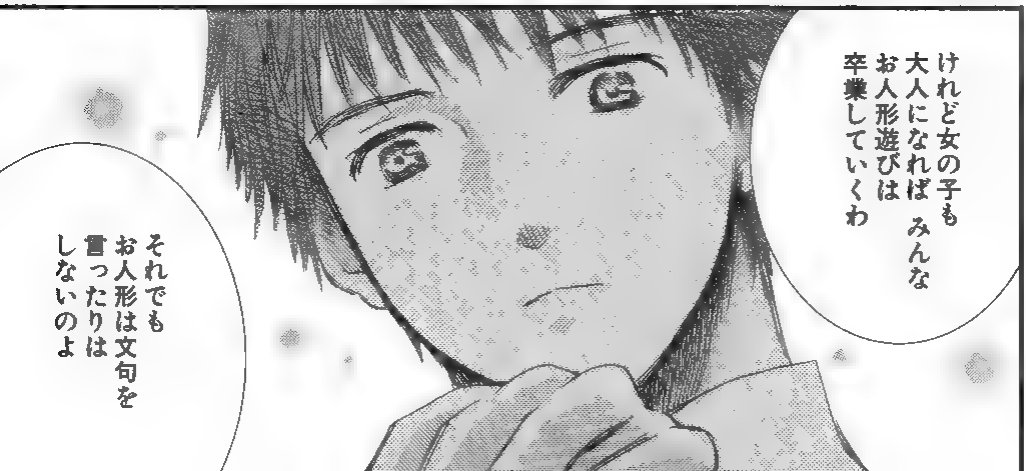
お別れだな
まいた僕
それにローゼンメイデン達
かしらー
せっ世話になったですこんにゃろう…
シャクだけど礼くらいは言ってやるです
マスター…
蒼星石…言っただろ？マスターは僕じゃなくなるって

君の指輪は
まいた僕に託したんだ
本当なら
指輪の譲渡なんてできない
んだろうけど…
ややこしいけど
まあ同一人物だからさ
君は僕が
組み立てた人形だ
ほんの短い間でも君の
マスターになれて嬉しかった
何もできない僕でも
何か作り出せるんだって
思えた…
…ありがとう
マスター…

マスター
ありがとう
元気で…

お別れね
仮下僕
…うん

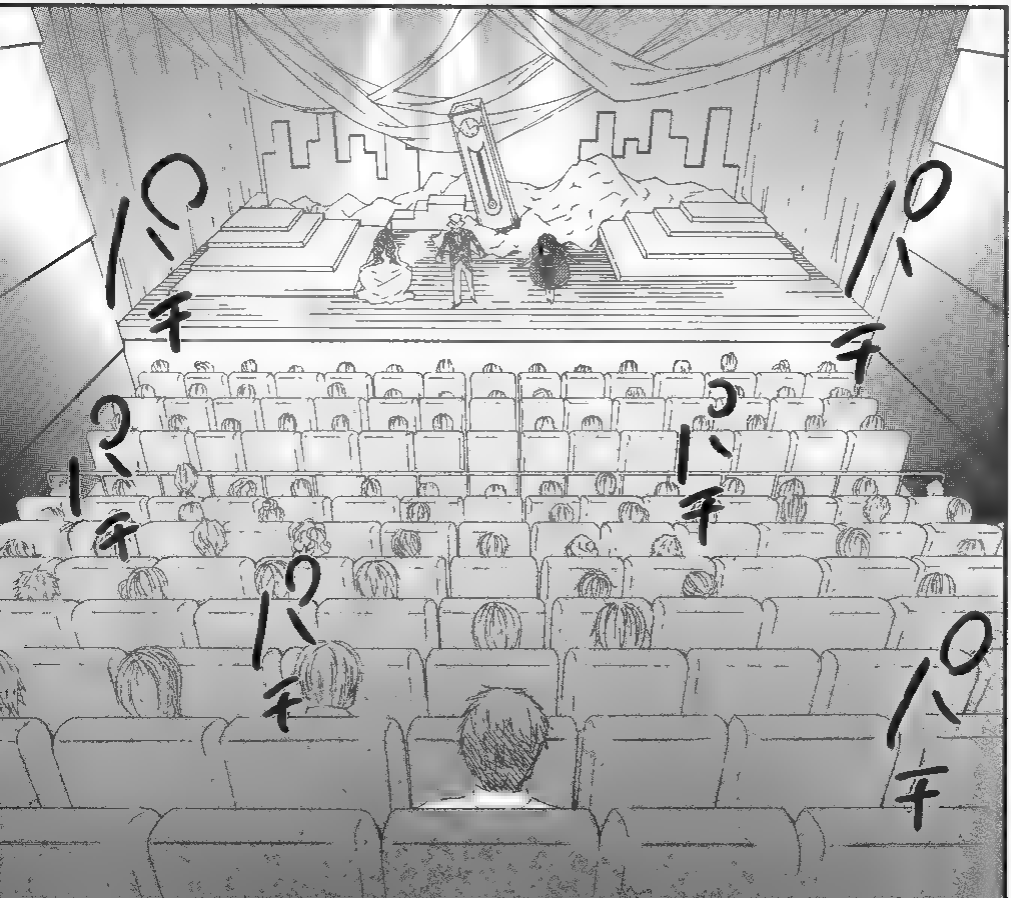

少し
寂しいよ
あら
女の子みたいな
事を言うのね


けれど女の子も
大人になれば みんな
お人形遊びは
卒業していくわ
それでも
お人形は文句を
言ったりは
しないのよ

覚えていてね
どうか
覚えていて
ジュン…
貴方の作った
お人形の事を…
この枝の先を
辿って行けば
まいた世界だ

じゃあ行くよ
まかなかった僕
僕らは
元居た世界に
戻る
ああ…
そして僕は
もう一方の
世界へ…
まかなかった世界へ
――…
忘れそうに
なったら
貴方の瞳の裏に
目をこらしてみて
子どもの頃の母々と一緒に
薔薇乙女(ローゼンメイデン)は そこに
ちゃんと居るのだわ
貴方が覚えてる
くれればいつだって
そう 世界が見える
選択肢に満ちて
いるようにね
私達は
――さあ
行くか
貴方の永遠の
お人形

TALE 25


パチ
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ

パチパチパチ
カーテンコール…
……
ワァー
斉藤さん…！
じゃぁここは…！

みんなでいっぺんに
元の場所に
戻るのよ
そうすれば
元あったものは
元あった通りに——

さあマスター
命令を――
戻ってきた……
のか？
舞台だ
舞台を
元通りに
したい
パチ

帰ってきたんだ――

かんぱーいっ

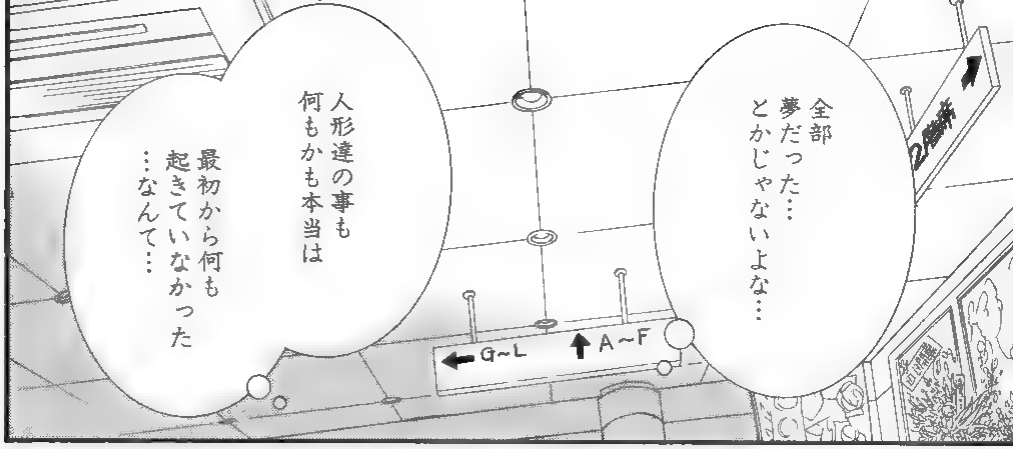
最終幕のどんでん返し客席わいたな——
すごいアンケートも絶賛だよ！
見たい見たいこっちにもまわして

明日もあるから早めに切り上げるぞー
はーい

けど…「元に戻った」っていってもどこからどこまで？

衣装も舞台も僕のデザインしたものに戻ってた
そもそものきっかけは真紅が来た時からのはずで

…まさか…


全部
夢だった…
とかじゃないよな…
人形達の事も
何もかも本当は
最初から何も
起きていなかった
…なんて…
G~L
A~F

ジュ――ン！
飲んでるかーっ
そーか
上等上等
座長さ…!?
いや僕…

……
えっうわ！
ちょっ…これ
コーラ…
BEER

本当ですか…？
よかった…
あっそうだ！
さっきのあれ
返しておかないと

今回の衣装
めちゃくちゃ
評判いいよ
役者もみんな
演技に気合
入ったってさ

あれって？
ほら あの
アンティーク人形！
本番前に
貸してもらったやつ
斉藤
持ってきて——
そうだ！
小道具の
人形！
あの時たしか
真紅を…
ジュンくんありがと！
大事なものなのに
ごめんね——
あ…いや
明日からは ちゃんと
小道具の人形
使うから…

やっぱり
夢じゃない

真紅達は
まいた世界に
帰っていった

ほんのわずかな
余韻を残して

僕はといえば

拍子抜けするほど
あっさりと元の
生活に戻った

相変わらずの日常

特に面白いこともなく
劇的な変化もなく

ただ淡々と

ったくオマエは
使えねぇな——
一生使えねぇわ
なんで存在してんの？
俺への試練？
うまくいかない事
だらけだけど
ぽん
ぽん
スミマセン…
今日中に
フォローしとけよ
相変わらず
嫌な奴は嫌な奴だし
んじゃおつかれー
あと頼むねー
多少の救いは…
まあ あるような

もう上がり？
山口くん
あわっ
ぶちょっ
わっ…
本社の部長さん
いえまさか
今ちょっと
タバコを買いに…
エプロンは？
本会議用の
発注報告書は
まとまってる？
あっ…と
今日まで
でしたっけ…
他店は揃ってて
あとは
駅前店待ち
あ…スミマセン
それだったら僕が…
今週中って
聞いてたんで
まだあと少し…
君が？
バイトだろ？
てめっ…
黙ってろバカ
え？え…
あのっ

駅前店の売上推移なら
バイトの桜田(さくらだ)くんが
一番詳しいので！
このノートを
確認すれば
早いんじゃないかと…

ノート…？
さっ斉藤ちゃん
何言い出しちゃってんの
急に――
なんでもないですよ部長
こんなのちょっとした
メモなんで…
そうだよ斉藤さん
それスリップを
チェックしただけの…
見せてくれる

……
え――と…
桜田くんだっけ
ちょっとこれ
借りていってもいいかな
あ…
はい
山口くんは
帰る前に
報告書ね
は…い
斉藤さん
なんだって
あんなこと…？
いや――だって
いいチャンスかなって
思って――
チャンスって…

最近店長
自分の仕事ほとんど
ジュンくんに丸投げして
それで終わってない
って怒るとか
ひどいから！
そうだっけ？
もう慣れっつあった…
も――
とにかく誰が一番
働いてるかは
わかって
もらわないと！
そうかな…
あんなの誰だって
できる事だし…
明日から
ちょっと
やりにくい
なぁ…

誰かがやればできる事って
誰もやりたがらない事
でしょ
それが普段から
できるってやっぱり
すごいと思うよ

上げるなぁ…
僕そんなに今日
持ちあわせが…
はしっ
あはは
そんなんじゃ
ないって
まぁジュンくんは
やりたくてやってる
わけじゃないだろう
けどさっ

あのさ…座長が
言った事
困らせてない？
ああ
正式に劇団の美術
やってくれないか
っていう…
そうそれ

なんていうか最初は私が
ムリヤリ頼んで
始まった事だったから
本当は
迷惑してるんじゃ
ないかなって
はは…
いやそんな事は

なりゆきだったのは
確かだけど…結構
充実した感じというか
芝居が
成功した時のあの
一体感みたいのは
楽しいもんだなって
……うん

…そっか
うん
そっかそっか
…ねぇ

え
ジュンくんさ
大学ぜんぜん
行ってないよね
急にそんな
重い…
だって
大丈夫
なのかなぁって

これからも参加
してもらえたら
そりゃすごーく
嬉しいけど
劇団が学校の妨げに
なるなら無理は
しないでほしいかなぁ…
……
…うーん…
違うんだ別に
最初から学校と
両立はできたと思う
単に僕の
逃げだったと
いうか…

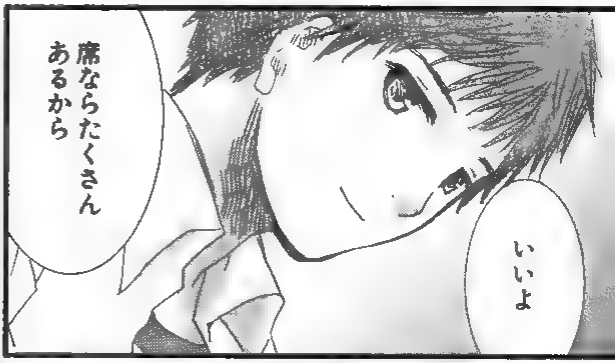
なじめないって
言うのかな
大学に行っても
あんまり…なんか
違和感って言うか
なんかそれは
意外…かも
…うん…
情けないけど
ううん
そういうんじゃ
なくって
ジュンくんなら
さくさく作れ
ちゃいそうだから
大道具とか
衣装作った
みたいにさ
？
作るって…
何を…
自分の居場所

「劇団だって
バイト先だって
もうしっかり
ジュンくんの事が
必要な場所に
なっちゃってるもん」
必要な…か
本当かね…
でも大学は
相変わらずだ
居心地の悪さ
切り取られたような
疎外感
この世界は僕を
拒絶してる
マスター…

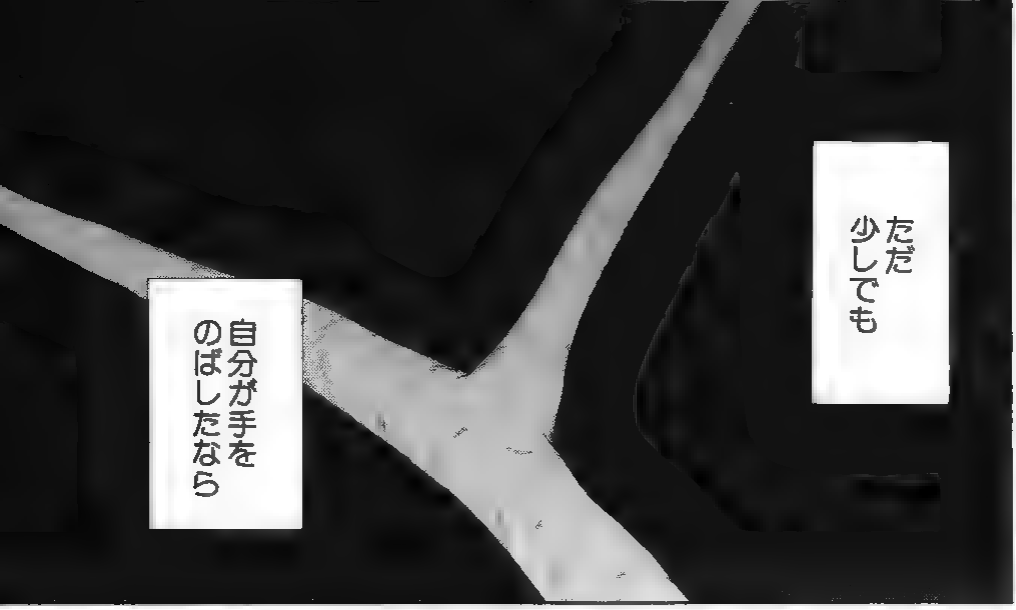
世界は僕に
手を差しのべない
でも
居場所なんて
そんなものかも
しれない

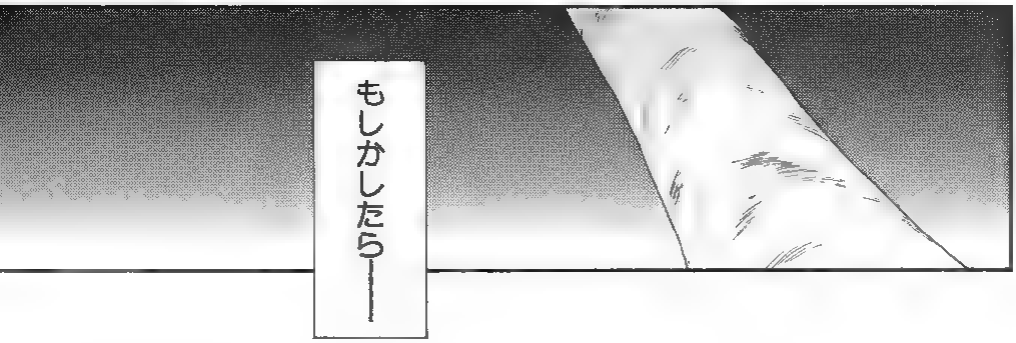
マスタァ…
あいつも
同じような気持ちを
味わったんだろうか

今思えば
あいつは…
あっごめーん
この席
取ってた？


いいよ
席ならたくさん
あるから

……
ありがと…


ただ
少しでも
自分が手を
のばしたなら


もしかしたら――

……え？
あの…
仰る意味が
よく…
そり…
さっきから桜田の奴
部長とナニ話してんだよ…
いや今すぐって
話じゃないんだよ
そり…

はあ…
考えてみて
くれるだけで
いいんだよ

そのノート
本会議でちょっとした
話題になってね
ここまでしっかりした
姿勢でいてくれる
なんて…
しかもバイトでって

は…ぁ…
他店に聞いたら
いつも電話は君が
出るそうだね
むしろ君に
聞かないとわからない
事が多いとか…

人望もあるし
意欲もある
これはもう
社員の…いや
店長の器
なんて言ったら
大げさかな…はは

…はぁ…
ありがとう
ございます…

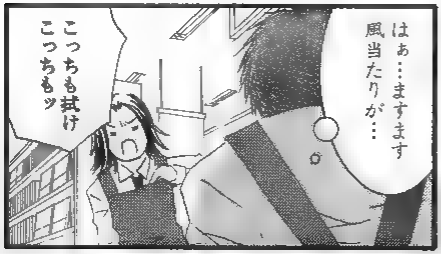
でもそんな姿勢とか言うほどの事じゃないです
このノートも自主的ってわけじゃなくて
店長に怒られたってきっかけがなければ始められなかったと…思うし…
それにその…僕…学歴…が…
学歴？

実は…最近まともに大学行ってなくて
大検で入ってるんで…もし中退ってことになったら…その…
…僕もね
大学は中退です
え…
でもまあ…なんとかやれてますよ…道は一つじゃないですかね

……まあ
ゆっくり
考えて
BOOKS

おい桜田ァ
はっ
はいっ
何トロトロやってんだ
っとに使えねーな
てめーはよ

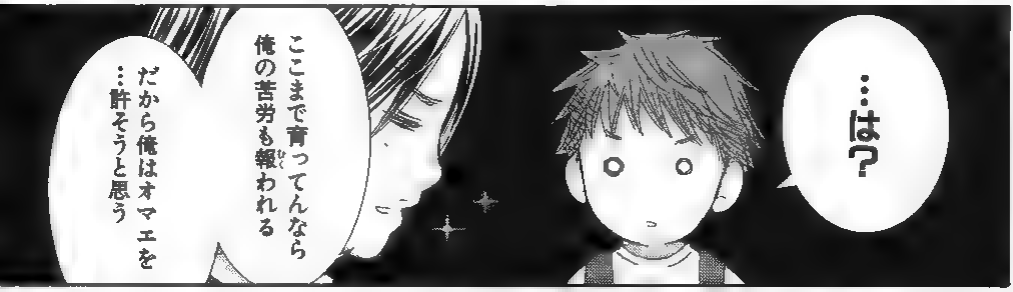
……
…はぁ…


はぁ…ますます
風当たりが…
こっちも拭け
こっちもッ

……
桜田
よぉ…
？
はい

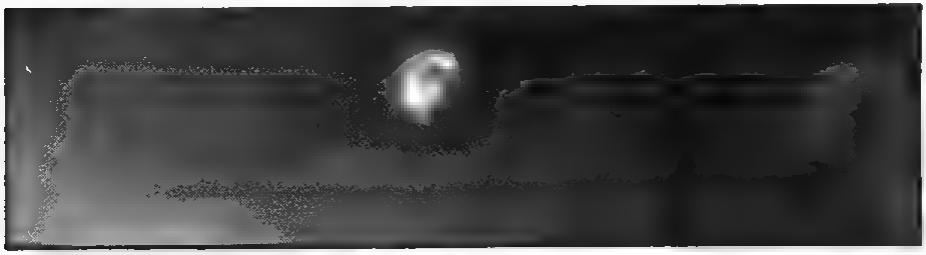
ホンっトお前って
トロいわモサいわ
使えねーっわ
？
てめーの尻拭いも
どんだけ俺が
してやったかとか
わかってんだろ
？
はーでもナントカは
使いようっつーの？
やっぱ俺の扱い方が
上手いっつーか…
そこそこマシに
成長してきたってのは
なァ…うん…

許すよ


…は?
ここまで育ってんなら
俺の苦労も報われる
だから俺はオマエを
…許そうと思う

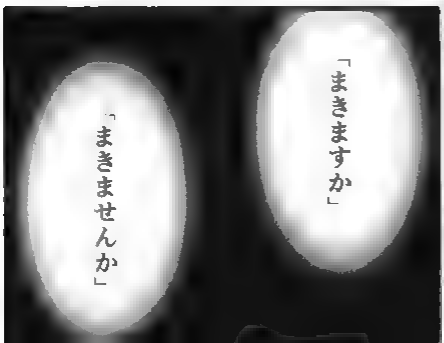
この辺りが
俺の人間としての
器のデカ
ぶッ
えっ!?
斉藤ちゃ…
も…もうダメ…
おかし…
さ…
斉藤さん
そんな…
ジュンくんだって…
ぶっ…くく…
えっえ!? ナニ
どうしちゃった!?

あはははははっ
ちょっ
ちょっと…
え!?
BOOKS
TAKIWA



なんだこの
いきなり選択肢
だらけの状況
はは…

劇団
就職
大学


「まきますか」
「まきませんか」

薇は まだ
僕の手の中にある

「やっと
気付いたのね」
そうよジュン
何もないと思った
世界に
可能性と
分岐を失った
世界に
貴方が覚えていて
くれれば
いつだって——
目をこらせば
無限の選択肢が
確かにあった

手をのばしさえすれば

– to be continued –

初出◆「週刊ヤングジャンプ」H22年2＋3合併号、7号、11号、15号、19号、24号

ヤングジャンプ・コミックス
ローゼンメイデン4

発行日 2010年9月22日[第1刷発行]

著　者 ◆ PEACH-PIT
©PEACH-PIT 2010
編　集 ◆ 株式会社ホーム社
〒101-8050　東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
電話　03(5211) 2651

発行人 ◆ 太田富雄

発行所 ◆ 株式会社集英社
〒101-8050　東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
電話　03(3230) 6222[編集部]
03(3230) 6191[販売部]
03(3230) 6076[読者係]

デザイン ◆ ミルキィ・イソベ＋明光院花音(ステュディオ・パラボリカ)
プリンティング・ディレクター ◆ 森岩麻衣子＋高本晃宏(凸版印刷株式会社)

Printed in Japan

印刷所 ◆ 凸版印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁(本のページ順序の間違いや抜け落ち)の場合はお取り替え致します。購入された書店名を明記して、集英社読者係宛にお送り下さい。送料は集英社負担でお取り替え致します。但し、古書店で購入したものについてはお取り替え出来ません。
本書の一部または全部を無断で複写、複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

ISBN 978-4-08-879029-9 C9979

◎この作品はフィクションです。
実在の人物・団体・事件などにはいっさい関係ありません。

ま　き　ま　す　か　　まきませんか

薔薇乙女、まいた世界へ――。

ローゼンメイデン 5

2011年3月発売予定

©PEACH-PIT/集英社